

会 議 録

会 議 の 名 称	令和2年度第1回吉川市総合戦略推進審議会
開 催 日 時	令和3年2月2日(火) 午後6時00分から 午後7時35分まで
開 催 場 所	吉川市民交流センターおあしす ミーティングルーム4
出席委員(者)氏名	大杉覚会長、瀬山紀子副会長、田口政博委員、小西毅委員 田中博委員、高木淳委員、吉川真由委員
欠席委員(者)氏名	池田憲一委員、小林照男委員、飯村毅委員
担当課職員職氏名	政策室 室長 野尻宗一、副室長兼主幹 荒川泰弘、 企画担当副主幹 油川誠、企画担当主査 相川美佐子、 企画担当主事 三浦雄太郎、企画担当主事 平野拓也、 関係課職員8名
会議次第と会議の 公開又は非公開の 別	1. 開会 2. あいさつ 3. 委員委嘱 4. 議事 (1) 総合戦略及び総合振興計画の策定について (2) 企業版ふるさと納税及び地域再生計画の策定について (3) 基本指標・重要業績評価指標(KPI)の進捗管理及び 戦略評価について 5. その他 6. 閉会 [公開・非公開] 公開
非公開の理由 (会議を非公開に した場合)	
傍聴者の数	なし
会議資料の名称	次第 資料1 総合戦略及び総合振興計画の策定について、 資料2 内閣府資料 第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」 (2020改訂版)について 資料3 企業版ふるさと納税及び地域再生計画の策定について 資料4 地域再生計画 資料5 基本指標・重要業績評価指標(KPI)の進捗管理について
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	吉川真由委員、高木淳委員
その他の必要事項	
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	1. 開会

<p>委員長</p>	<p>2. あいさつ コロナ禍という大変な状況の中、あっという間に1年が過ぎ、久しぶりの会議となる。皆様のご協力を得ながら円滑に進めていきたいので、よろしくお願いします。</p> <p>3. 委員委嘱 2名に委員を委嘱 ・埼玉りそな銀行吉川支店長 高木淳 氏 (前任：埼玉りそな銀行吉川支店長 石田宏記 氏) ・NPO法人 To Going Concern for Women 代表 吉川真由 氏 (前任：吉川青年会議所理事長 程田幸秀 氏)</p> <p>4. 議事 議事開始前に本日の議事録署名委員を選任したい。吉川委員、高木委員に議事録署名委員をお願いしたい。 (両名、了承)</p>
<p>事務局</p>	<p>(1) 総合戦略及び総合振興計画の策定について (資料1、資料2を用いて事務局から説明)</p>
<p>副委員長</p>	<p>【意見・質疑等】 次期総合戦略策定において、国の「感染症の影響を踏まえた今後の地方創生」を踏まえるとのことだが、新型コロナウイルス感染症の影響で、市の中での変化はあったか、データなどはあるか。夜間人口と昼間人口のあり方など、今年、大きな変化があると思うが、市として、感染症の影響を踏まえた今後の地方創生についてどのように考えているか。</p>
<p>事務局</p>	<p>感染症に関連し、はっきりとしたデータは手元にないが、公共交通事業者との意見交換の中で、利用者が7割、8割まで減っていることから、在宅勤務などによる外出制限がなされていることが分かっているところである。地方創生の関係では、感染症への対応のため、国から地方創生臨時交付金が交付されている。この交付金を活用し、公共交通事業者への対策や、飲食業など外出自粛に伴う事業者の収入減に対する支援や、生活困窮者への支援にあたってきた。</p>
<p>副委員長</p>	<p>感染症の影響により、通勤圏として地元で注目が集まっており、チャンスであると考え。地元での買い物のニーズ、地元で仕事をするニーズが高まっていると考えられ、サテライトオフィスの整備など、新たな可能性としてあるのではないかと。</p>
<p>委員長</p>	<p>感染症の影響で、コミュニティのあり方も変化するのではないかと。昼間人口が増えると思われるが、その人たちの間で密な関係ができない中で、どのようなあり方になっていくのか、影響を見ていただきたい。感染症収束の見込みは未だつかないが、感染症が</p>

社会生活面などの面でどのような影響をもたらしたのか、中間的な検証をしておくべきと考える。

(2) 企業版ふるさと納税及び地域再生計画の策定について

事務局

(資料3、資料4を用いて事務局から説明)

委員

【意見・質疑等】

企業版ふるさと納税について、当社の連結子会社が北海道にあり、企業版ふるさと納税へ支援をいただけないかとの話があった。そのような申し出を積極的に行う自治体もある。

委員長

貴重なアドバイスである。企業にとってはイメージアップにもつながるといえることあるだろう。企業版ふるさと納税については北海道の東川町などが、コンセプトがしっかりしており、企業が乗ってしやすいものを用意するなど手法に長けており、かなりの金額を集めている。吉川市の企業版ふるさと納税の使い道については、総合戦略の基本目標の1または2に関するものということだが、もう少し具体的なものを出していけると良い。

副委員長

総合戦略の2つの基本目標には、いろいろな事業がひも付けられているが、どの事業にどれだけ分配するかなど考えているか。

事務局

全体で10億円程度を寄附金として想定しているが、分配については市の裁量となっている。今後、具体的な事業等を考え、活用できるようにしていきたい。

(3) 基本指標・重要業績評価指標（KPI）の進捗管理及び戦略評価について

事務局

(資料5を用いて事務局から説明)

基本指標1

副委員長

【意見・質疑等】

地域寺子屋事業は前回と同じく6団体実施とのことだった。地方創生を進める上では、市民グループなど協働の主体が、どう育っていくのが重要と考える。地域寺子屋事業については団体数を増やすということを掲げているが、事業を実施できるような体力のある団体や市民グループをどのように育てていくのか、行政としてどのような支援を行うことで、協働の主体が立ち上がったり、育てたりすることができるかと考えているか。

生涯学習課

地域寺子屋事業はスタート時に1団体だったところから、6団体まで増えてきたところである。市で実施する「まちづくり出前講座」で地域に出向き、成功事例紹介、先行団体の視察の仲介を行うなどして周知を行っている。

副委員長

新しい芽となるような団体はあるか。

生涯学習課	地域で実施する社会科見学などとして実施できないかとの問合せは年に数回あり、事業が広まるようご案内している。
委員長	現行の制度では自治会区や学校区程度の区域で実施していると思うが、市内全域など区域を広げることや、公民館の事業のオンライン化など色々な手法が考えられる。立ち上げ支援については、中間支援をするような組織や、先行している組織等が行い、行政がその支援に係る費用を出すといったやり方であれば、地域のネットワークが広がっていくのではないかと。
委員	家庭教育学級とはどういうものか。
生涯学習課	小中学校のPTAや、保育園・幼稚園の保護者会が企画し、保護者向けに実施する講座である。
委員	しつけなどに関する内容とあるが、講師はどういった方か。
生涯学習課	各団体で企画しており、食育の関係の講座を栄養士に頼んでいるケースなど様々である。また、子どものしかり方といったテーマで県の家庭教育アドバイザーにお願いすることもある。
委員	保護者だけでなく教職員の中にも、生活マナーなどで指導の必要がある方がいるように思う。
学校教育課	校長会に伝え、指導を進めていきたい。
委員	地域寺子屋について、東埼玉テクノポリス協同組合の理事会としては、SDGsを通して社会貢献したいとの考えであり、社会科見学の受け入れなどが可能である。最近では旭地区センター内の組合事務局室にテレビ会議室を整備した。他の企業とも連携し様々な形で協力できると思う。商工課を通じ声かけして欲しい。 また、多様な働き方について、物流関係の事業者には積極的な会社数多くあるので、つないでいただければ協力できることがあるかもしれない。
委員長	小学校ではSDGsの教育が始まっている。企業と小中学校による取り組みは、行政主導のものより進みやすいだろう。
委員	持続的な活動として支えていければと考えている。
委員	施策1の指標で、大人が「子どもが未来を生きる力を持っている」と考える割合の数値が下がっているが、学校教育と民間企業を結ぶ機会が不足していると感じる。子どもは普段から動画などをよく見ており、企業がYouTubeなどにより自社の仕事の情報を発信するなどし、子どもがこんな仕事をやってみたいと思えるよう、色々な職業、

	職種を見せていってほしいと思う。
委員長	<p>キャリア教育を考えるうえで、地域の企業や事業者について知ることは、地元で働くことについて考えるきっかけとなる。オンラインもいいが、地域寺子屋事業のような生の体験もまた良いところがある。</p> <p>また、毎回話題となるところだが、指標の取り方について、若い人、年配の人で違いがあるか、希望子ども数などについては、年代別で分けて捉えることも重要だろう。</p>
委員	<p>当行では、夏休み期間にお金について学べるイベントを行っている。文京区の支店にいた際は、区の事業として実施する子ども向けスタンプラリー企画に組み入れてもらったこともある。市内金融機関として地元企業とのタイアップ事業などでご協力できると良いと考える。</p>
委員	<p>大人からみた子どもの指標では、大人自身の不安も反映されていると思う。子どもの不登校などでは、大人も不安を感じており、そのような大人の居場所が必要と感じる。個人的に、行政に相談するほどでもないような悩みを聞くことがあるが、大人にとっての救いの場として、行政と地域団体との中間地点となるような場所づくりが必要だと感じる。</p>
委員長	<p>居場所づくり、つながりについて、子どもにも大人にも必要と考える。自殺者が増えている状況もあり、考えていく必要がある。</p>
	<p>基本指標 2 【意見・質疑等】</p>
委員	<p>入込観光客数の内訳はどのようになっているか。</p>
商工課	<p>市内イベントの客数であり、今回お示ししているのは令和元年中の数字である。なまずの里マラソン、八坂まつり、ジャズナイトが主な内容である。令和2年中は関係するイベントが実施できていない状況である。</p>
委員	<p>指標「吉川市の成長力」が今回38点とかなり下がった。指標の数値については、上がるものもあれば下がるものもあるが、例えば入込観光客数の指標などは、次回明らかに下がることが見込まれる。評価についてどう考えていけば良いか。</p>
委員長	<p>指標「吉川市の成長力」などは採点基準の作り方が良くなかった、というのもあるだろう。達成度が下がった指標もあるが、指標の数値のみを気にしすぎる必要はないと考える。</p> <p>例えば、ジャズナイトなどのイベントについて、別の対応策を考えたかどうか、といった取り組みの内容が重要である。</p>

商工課	<p>今年度、ジャズナイトについては通常どおりの開催ができなかったため、主催者である商工会青年部の会員が、楽器を持ち寄り合奏する様子を動画撮影し、YouTubeで配信するという取り組みが行われた。</p>
委員長	<p>完全に取り戻すことは難しいものもあると思うが、何か代替でできないかと考えることが重要である。</p> <p>また、指標の数値の上がり下がりについては、例えば、広報よしかわに関する市の取り組みは、前は満足度がかかなり高く、今回かなり下がっているが、広報誌が大きく変わったとも考えられず、結果にブレが出ているものとも考えられる。</p>
委員	<p>市外在住だが、新聞を取っていると、ミニコミ誌が折り込まれており、市の取り組みなどが掲載されているのを見かける。独自の魅力を工夫して発信する取り組みが必要であると感じる。</p>
委員長	<p>新聞が取られないようになり、広報誌がどのくらい読まれているかわからない。広報誌だけでなく、若い人向けにはSNSなど、どのように情報を発信していくのが重要だ。</p>
委員	<p>市民意識調査の評価については、原因が想定でき納得できる結果のものもあれば、評価がなぜ低いのか分からないものもあるだろう。市民意識調査の評価をそこまで気にする必要はなく、市独自に評価を行いながら取り組んでいけば良いのではないかな。</p>
委員長	<p>それぞれの指標に関してどういった取り組みを行っているかということをしっかり示していくことで、市民の納得を得られるだろう。</p>
副委員長	<p>今回、コロナ禍においての市の取り組みについて一部聞いたが、次回の進捗報告では、コロナ禍で極端に数字が下がるものも出てくると思う。地方創生というテーマの中で、テレワーク、地元での買い物、農業など、コロナ後のニーズを捉え、取り組みを考えていかなければいけないと思う。その中で、コロナ後の新たな指標を今から設定していけると良いだろう。</p>
委員長	<p>過去にはリーマンショックや東日本大震災などがあつた。今回はコロナ禍の状況を踏まえ、どういう視点で考えていくか、ということになる。次回以降は、そうしたことについて考えていきたい。</p>
事務局	<p>5. その他</p> <p>令和3年度は、次期総合戦略の策定を予定しており、会議は3回程度開催したいと考えている。委員のみなさまには、次期総合戦略の策定にご協力を賜りたい。</p> <p>6. 閉会</p>

副委員長

(副会長挨拶)

このような時代だからこそ、SDGsが力になっていくと良い。生活の課題のほか、ジェンダー平等では、女性不況、国の男女共同参画改定。市には男女共同参画のセンターもあるので、地域の女性、様々な色で、地域を支えていけると良いと考える。

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和3年3月16日

署名委員 吉川真由

署名委員 高木淳